周南の島「大津島」コミュニティ紙

潮流

2023 年 7 月号

No.292

題字：末兼南子さん　イラスト：大津美子さん

大津島データ　140 世帯
人口 191 人　男 78 人　女 113 人
高齢化率 80.6%
(令和 5 年 5 月 31 日現在)

周南公立大学生と意見交換

5月26日（金）に刈尾公会堂で周南公立大学生と買い物支援検討委員会の代表者3名による意見交換が行われました。7月1日（土）に島内での移動販売（道の駅ソレーネ）を大学生が起業家目線を取り入れた企画です。移動販売車の商品に牛肉、鶏肉がない事や、島は魚が食べ放題と思いきや、意外と食べられない現状に、大学生はびっくりしていました。意見交換は1時間近く行われ、その後は島内の移動販売の場所を案内しました。大学生との取り組みは一日のみにはなりますが、島の皆さんのためにも何ができるのか考えてもらいたいです。また、買い物支援検討委員会の皆さん、急な取材も重なり大変お疲れ様でした。

※ 意見交換の模様は、先日のKRY熱血テレビで放送されました。

文＝大津島支所　原田　和保

「子どもの日、島の赤ちゃん大集合」

大津島に4人の赤ちゃんが誕生し、初めての子どもの日ということもあり大津島海の郷にて柏餅作り体験を行いました。

今回は昔ながらの上新粉のみで作りました。柏の葉の代わりに大津島ではまんじゅうしばを使っていたらしく、島中を探して収穫させて使わせてもらいました。みなさん初めての体験で楽しんでいただけたみたいです。

今回、光（みちる）ちゃんが風邪をひいてしまって不参加となってしまったのですが、大津島で育つ子どもが集まる貴重な機会ともなり、交流を深めることが出来ました。瑛太くんが走り回ったり、燈季くんが初めての場所で少し緊張してるタイミングがあったかな?とか、うちの陽太が皆そっちのけでお昼寝したりと楽しかったですね。また季節を感じられる行事のときには、みんなで集まって過ごしたいですね。

左から（燈季くん、陽太くん、瑛太くん）

文＝小池　良太

ポテトマラソンまでに大きく育て！

5月27日（土）、9名のメンバーでさつまいもの苗を植えるため島に渡る。天候もよく、さわやかな風に島のお年寄りの指導を仰いだ。昨年の植え方に不安があったのだろう、丁寧に教えていただいた。前の週に畝を切っていたこともあり、マルチをセットする人、植える人、水やりをする人に分かれ、スムーズに作業は行われていった。

芋づるは、農協で購入した200本に加え、いも床で育てたものを使用。まだ、つるが育ちきっていないので、畑の畝全部には植えることができなかったが、6月下旬くらいまでには完了の予定。植えて2、3日は水やりをお願いしたが、ちょうどいい雨が降り、きっと苗もついてくれていることだろう。昨年は、200kgくらいをポテトマラソンに提供することができた。今年もそのつもりでの準備だが、立派に育ってくれることを祈るばかりだ。ご協力いただいた皆さんに感謝いたします。秋には、メンバーでまた収穫しましょう。

文＝佐々木　照彦

徳山湾見聞録 39　戦艦大和と徳山湾の話し（その1）

戦艦大和というと、太平洋戦争を戦った世界最大の戦艦であったことは、皆さんもご存じのことだと思います。

その大和は、呉の海軍工廠で造られたこともあり、設計どおりの速度が出せるかなどを確認する公試運転の場所には高知県沖が選ばれ、昭和16年10月に実施されましたが、大和が搭載していた世界最大の46㎝主砲の発射試験は、同年12月、大分県の姫島からここ徳山湾をめがけて行われたとされています。

このように大和の始まりは、徳山湾との関わり合いの始まりでもあったのですが、大和の最後もここ徳山湾でした。

大和は昭和20年4月6日、沖縄の島に座礁させて沈まない船として戦う、海上特攻の命令が下され出撃して行きますが、その最後の寄港地も徳山湾でした。

その場所は元徳山高専の工藤洋三先生が、米国の公文書館の資料から、大和が映り込んでいる画像を発見したことにより、洲島の南約2kmの海域であることが分かりました。

では、なぜ大和は徳山湾に入らなかったのかは、詳しい資料は確認できませんでしたが、徳山湾の水深と大和の喫水（海の下に隠れている部分）の長さにより座礁の危険性があったこと、空襲を受けた場合、湾内からすぐに抜け出せないことなどがあったのではないかと推測されます。

大和というと遠い存在のように感じられますが、実は当時は、大津島からも何度か見かけることができた戦艦でもあったのです。

イラスト　三崎さん

文＝大津島巡航　三崎　英和

若潮の会通信 No.51

モニュメント（希望の風）へ遠足

4月30日に若潮の会の総会がふれあいセンターで行われ、開催前には有志でふれあいセンター裏山の展望台に登りました。前日はかなりの大雨で、登れるのか心配しましたが、当日は雨が上がりました。私たち持ってますねぇ・・。展望台のモニュメント迄700mの表示があり、わくわくしながら養浩館横から竹林を通り、落ちた笹の葉を踏みしめながら展望台を目指しました。散歩コース位の気持ちで登り始めましたが、結構な坂道で、途中木の階段が設置され歩幅を合わせるのに体力を使いました。約25分位で展望台に到着、モニュメントが大きく立派でこの場所にどうやって設置されたのだろうとあれこれ思いを巡らしました。展望台からの景色は霞がかかり今一つでしたが、達成感があり楽しかったです。是非お天気がよい日に登り徳山湾、遠くに九州等を見てみたいものです。

コロナ禍で若潮の会の活動がほんど行われていませんでしたが、これからも皆さんと一緒に行事や遠足等を楽しんでいける事を願っています。

文＝野間　志希子

「モニュメント途中の見張り台にて」

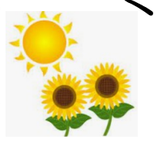
⑨ 春は足早に過ぎてゆく

みなさん、こんにちは。ついこの前、桜の開花宣言、満開だと言っていたのが桜も終わり、ツツジが咲き乱れ、暑くなってきました。

通勤の途上ではツバメを多く見かけるようになってきました。ツバメを見かけると暑い夏が近いんだなと感じる毎日です。

また林の中ではウグイスがホーホケキョと鳴いています。最近気づいたのですが、ウグイスの鳴き声も変わるんです。早い時期は、はっきりとホーホケキョとは聞こえないんです。段々と鳴き声がホーホケキョとはっきり分かるようになるんですね、やはり練習すると上達するんでしょうね。歩きながら身をもって季節の移り変わりを感じています。

以前は、車で自宅と職場の往復で自然と触れ合う機会が少なかったんだなと改めて感じています。こういった自然をいつまでも残していきたいなと改めて思います。



また、最近、季節が夏と冬の2つの季節だけになりつつあるのかなと思う時があります。特に夏が長くなっているような、夏が終わったと思ってもいつまでも残暑が厳しかったりと。その分、春や秋が短くなり、急に夏や冬へと変化していくような寒暖差の変化が激しくなってるような、そんな感じがしています。これは、異常気象なんだろうなと思うのですが、普通の春、夏、秋、冬の季節を楽しみながら健康に過ごしていきたいなと思っています。もうすぐ夏ですが、普通の暑い夏でありますように・・・

文＝回天記念館　佐伯　孝洋

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
９月１日　第293号

【７月～８月の主な島の行事予定】
７月２日（日）十人墓供養祭（瀬戸浜地区）

移動図書館　やまびこ号ジュニア
７月19日（水）、８月23日（水）
馬島１１：３０～　刈尾１２：２０～

大津島地区社会福祉協議会からのお願い
善意銀行への寄付にご協力ください

【編集後記】
隣りの県ではサミットがあり無事に終わりました。熱中症は、気温が高くなくても、湿度が高ければ起こる可能性があります。皆さん、こまめに水分を補給しましょう。
文責：大津島支所 原田 和保

知っちょるかね

山の家

その昔、我が家は突然島の中腹に家を建て、引っ越した事があった。どうやらご近所トラブルで母が参ってしまって、逃げ出したものらしい。そんな事など一向に知らされぬまま、子供達は引っ越しとなり山の上から通学となった。家を出るのも、他の子供達より三十分くらい早く出なければならないし、寒い時や雨降りなど、細いくねくね道を一歩ずつ登るせんなさ。それでも、子供は慣れる。その内くねくね道をマンガを読みながら帰ったり、途中で野いちごを摘んだり楽しみもみつけた。が、帰っても親は居ない。父は船乗り、母は工事に出てまだ帰っていないのだ。そこで、帰るのが早い子が、ランプの灯を点ける。それは大概弟の役目で、次に妹、母、私の順で帰宅する。ある時、弟は海に落ちずぶ濡れになった。気の毒がったオジサンが親切に「ウチの風呂に入って帰れば」といってくれたのに、「すぐ母ちゃんが帰るからええ」と断って山の家に戻ったという。

帰った母ちゃんが喜ぶようにと風呂まで沸かして待っていたが、中々帰って来ない。自分は濡れて寒いのに母ちゃんと風呂に入ろうと待って待って、待ちくたびれた頃、ようやく母ちゃんは妹と二人、宮の祭りを見て帰ったそうな。途端に「母ちゃんのバカ」と飛びついて大声で泣きに泣いたという。母も「可哀想な事をせたと思って、ワシも涙が出て、一緒に泣いた」と思い出しては話していたものだ。ランプの暗い明かりの中で宿題もしたし、本も読んだ。時には山の中の一軒家という事で、カメラマンの方が島の写真を撮って歩く途中で寄られ、母娘三人写真に撮ってくれて、後日送って下さった事もある。その写真は今でもアルバムに大切に貼ってある。またある時は、暗くなって畑から下りて来たおばあさんが、びっしゃ。使ってない※ダイツボに落ちたと言う。二月の一番寒い頃。ガタガタと震えて顔色も真っ青。このまま帰ると言うのを引き止めて、お湯を沸かしてお茶を飲ませて足をお湯に浸からせて、こおり餅を焼いて食べさせて、綿入れを貸して帰したそうだ。後に「あの時のお茶の美味（うま）かったこと。足を温めて貰うて生き返った様じゃった。あのままなら、帰るまでにワシは死んじょったかもしれん」と何度も礼を言っていたそうだ。人里離れた所に住んでいたからこその思い出も多い。何より夜空の美しさ、星の輝きがまるで違った。本当に手を伸ばせば触れるくらいで、吸い込まれそうだった。見晴らしも良かった。巡航船が戻るのも逐一見えたので時計がわりになったし、夜は家々の明かりがきれいに見えた。

その頃、インスタントラーメンが出て、自分で作ったラーメンを山の家から集落を見ながら食べるのがマイブームだったなあ。父が何処からか鉄製の丈夫なベッドを貰って来て、それを置き座にして、夏場涼んだり、その上でピクニック気分でご飯を食べたり。子供心がワクワクする経験をあの山の家での何年かでさせて貰った。残念ながら、旱魃（かんばつ）の年に水不足になり離れてしまったが、私の心の二十パーセント位は山の家にある。時々無性に思い出す山の家、足が動く内に行ってみたいと願うこの頃。　※肥溜め

文＝松本　千恵子

大津島でメダカを大切に育てているお宅を見つけました。現在、メダカは絶滅危惧種に指定されております。昔は、川や水路などよく見かけてはいましたが、そういえば、見かけなくなっている様な気がします。ずっと見ているとすごく癒されます。これからも大切に育てて下さると思います。お家に伺った際には、鑑賞させて下さい。文＝大津島支所　原田　和保

マリーゴールド

夏の花を植えてみました。
支所にお寄りの際は、ぜひご覧になってお帰り下さい。

スマホでQRコードを読取、ホームページを検索するとカラーで見れます。

◆発行　第292号ー令和５年７月１日ー大津島地区コミュニティ推進協議会　◆編集　潮流編集委員会　◆事務局　大津島支所　〒745－0057　周南市大字大津島1361－4　電話0834（85）2001　ファックス0834（85）2732